

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470300530		
法人名	有限会社 友の里		
事業所名	グループホーム 友の里		
所在地	鈴鹿市長沢町1750-1		
自己評価作成日	平成26年11月11日	評価結果市町提出日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/24/index.php?action_kouhvu_detail_2014_022_kihon=true&JigyosyoCd=2470300530-00&PrefCd=24&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 26 年 12 月 10 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・お互いを理解者として支えあい、入居者の個性やペースに合わせ、その人らしく、毎日がはりのある生活が送れるように支援している。
 ・朝の体操、屋内外での歩行運動支援・季節の体感「花や野菜の成長」を見て、日々元気で暮らす支援している。
 ・平屋建てで、何時でも自由に庭に出入り「調理や家事」等利用者個々の出来ることを支援している。また一緒に行うことで顔なじみの関係をつくり利用者が孤独にせず関わり合いを持ち支えあえる支援している。
 ・敬老会や祭りへの参加呼かけ、地域との関係を深めている。、またボランティアにも協力してもらっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

周辺は畑や植木業者の木々に囲まれ、緑豊かで広々とした環境にある。窓から見える景色や散歩時にも花や野菜、果物を頂いたり、庭に果樹や野菜を育て、自然と共に、料理や小物等手作りの多い暮らしが営まれている。事業所は利用者の家であり、利用者と職員と一緒に暮らす家族であるという気持ちで支援が行われている。家族への連絡にも配慮し、細かいことも相談や報告をしていくことで、家族の信頼や安心感につながっている。一人一人のアルバムを利用者自身と職員で手作りし、家族にも良い記念になる、と喜ばれている。重度化により外出や外食が少なくなってきたので、事業所内で楽しめるよう、テラスでのランチやお茶、庭での焼き芋を行い、工夫を凝らしている。看護師の職員がおり、健康管理や医師との連携に活躍している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「楽しく・のんびり・一緒に」理念を目の届くところに掲示し、共有し合い、理念を基として、日々同じ目線で生きることの喜びを見つけ出し、その人らしい生活が出来るように実践につなげている。	設立当初からの理念は施設長が職員へ繰り返し伝え、支援の中心にある。家にいるような生活をしていけるように、役割としての家事や楽しみになるレクリエーションを利用者と職員が共に行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭りに参加し、地域から孤立することなく「小学校の運動会」等に参加し、地域との関わりを持っている。	周辺住民とは野菜や果物を頂き、避難訓練や事業所の夏祭りにも招待して交流できている。自治会長や民生委員からも提案や協力があり、支援を受けている。	より多くの住民と交流を図り、重度化していく中でも充実した生活を送ることができるように、ボランティアの受け入れを進めていくことを期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に活用している	地域の小学校の課外学習・ヘルパー実習の受入れ等を通じ、施設や認知症の方の理解や生活の様子や介護の方法等を伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月間の取り組み状況、活動内容を報告し、質疑応答、助言等を話合っている。	自治会長や民生委員も積極的に関わっており、制度についての説明や、AEDの利用について意見が出され、検討された。参加者との話し合いから交流が深まり、意見をサービス向上に生かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護相談員が月1回訪問し、利用者の思いを傾聴等情報を交換している。来訪時に居室の空き状況や伝達事項を伝え連携し、わからないことは相談している。	市の担当者へはスプリンクラーの設置について相談し、市からは事業所へのボランティア受け入れの打診があり、協力関係は築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	朝のミーティングで利用者が安心・安全な生活が送れることの支援、また無意識のうちに身体拘束をしない取り組みを話し合っている。	玄関は常時開放が原則で、身体拘束もしない方針で支援がなされている。利用者の状況により、安全のためにやむを得ず行う場合は、職員間で検討し、家族への説明と同意を得た上で行い、記録に残している。現在、手作りの車椅子ベルトを使用している利用者がいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修、朝のミーティングで虐待防止について話しあっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用の利用者がいる。運営推進会議にも出席、職員全員理解している。今後必要な利用者や家族に制度の話をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にホームの内容「重要事項」を用い説明、その際、疑問、不安点を訪ね説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月1回介護相談員の訪問、利用者の思いを傾聴する機会を設け、また職員との情報交換をしている。家族の方の意見反映として意見箱の設置、面会日時相談要望を聞いている。	面会や電話でもその都度、報告と意見の聞き取りを行い、家族会や夏祭りといったイベント時に交流することで言いやすい関係を作っている。現在、家族からの要望や苦情は出ていない。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者、管理者共日々介護に関わり職員と常に話す機会を設けている。	日常の業務の中や会議時にも、意見が出され、その都度検討し、実践につなげ、方法を再検討して、前向きに反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者と職員一人ひとりが話し合えるようにミーティング等機会を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の研修の機会を設け、受講し、育成に努めている。研修レポート資料を事務所に配置し、他の職員にも説明し常に学べるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所の施設見学や勉強会等を通じ互いの情報を交換することで、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人と会う機会を設け、本人の状況、本人の希望を傾聴し、不安や戸惑の緩和を図り、本人が安心できるよう信頼関係に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望、希望、不安や困り事等を聞く機会を設け、今後の要望を聞き、一緒に利用者を支えて行けるよう連絡・相談を密にして信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設見学や入居相談時、本人と家族の希望や要望を聞き、今置かれている状況を確認し、必要としている支援を見極め、また他のサービス利用や地域包括支援センター等を紹介する等の対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と共に生活していくなかで、利用者から学んだことも取り入れ、一緒に行うことで家庭的な関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と一緒に本人を支えて行くことを職員全員が周知し、些細なことでも家族と相談し、共に支えられるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前に馴染みの人との関係が途切れないよう本人、家族に聞き、面会や電話、手紙のやり取りがいつでも出来るよう努めている。	家族や友人の面会や、正月に親戚大勢で料理を持ち込んで交流する利用者もおり、居室や他の部屋も提供して、過ごしやすいように配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者個々の性格や相性を把握し、お茶、レクに参加の際より良い関係に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了後も書類等の手続きの相談や支援を必要に応じて行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族から要望を聞き、日常生活の中で繁榮に努めている。また意思疎通が困難な利用者は、表情や顔色等から判断し本人の意思を尊重している。	入居時には家族や前サービス担当者からの聞き取りを行い、利用者からも会話から好みを把握して、個別の支援に生かしている。表せない方には表情や観察をよくする事で把握に努め、検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族に趣味趣向を聞き取り、日常生活に反映している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々バイタル測定し、健康管理に努めている。日常のコミュニケーションを密に図り、細かな気づきを大切に、状況を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会時等、定期的に本人・家族から思いや希望・要望を聞き、意見を反映に繋げ、本人が楽しく元気で快適に暮らしていけるような介護計画を作成している。	日々の細かい記録を元に、毎月全利用者の生活の様子を職員会議で検討し、医師の意見は看護師を通して得て、家族や本人の意向も含めて計画の作成と見直しに反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状態状況を伝達また記録し、職員間で情報の共有を行い、モニタリング等で介護計画の見直しを行い、また職員間でより多くの情報を共有できるように連絡ノートを活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の、要望を取り入れ、サービス内容を変更し、満足できる生活が送れるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員や自治会長と意見交換しながら、地域の行事に参加し、利用者が安心して暮らせるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望優先し、家族が対応できないときは職員が他医療機関受診支援している。かかりつけ医との連携も密にし、事業所との関係を築き適切な医療を受けるようにしている。	利用者の希望に沿ったかかりつけ医で、看護師を中心に全職員が利用者の病状や服薬状況について把握し、受診や入院に対応できるようにしている。家族と職員は状況に合わせて協力し、通院介助している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員が常駐しており、かかりつけ医や家族と情報を連携、相談し、一人ひとりの利用者が適切な受診や医療を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、本人に関する情報を提供している。また入院時は定期的に状態の確認、担当医、担当看護師との情報交換を行い、退院に向け本人、家族が安心して暮らせるよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用契約時に、週末期について話をしている。重度化した場合には出来る限りのケアに努め、本人家族希望を受け入れるように取り組んでいる。	家族の希望により、今年初めて看取りを行った。在宅専門医の協力のもと、職員間で話し合い、看取ることができたので、職員にとって勉強になり、得ることが多かった。家族も喜んでおり、今後も前向きに取り組んでいきたいと思っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時に備え、マニュアルを作成、職員全員が実践に向け対応が出来るよう研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	利用者の急変や事故発生時に備え、マニュアルを作成、常に対応できるよう見やすい場所に掲示してある。年2回火災、震災時の訓練をしている。	年2回、専門業者や地域の消防団や住民の協力の下、消火や避難訓練を、昼間・夜間、その都度想定を変えて行っている。災害用品を玄関横に準備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その時々の方の気持ちを大切に考え、さりげない声掛けや対応を心がけている。トイレ、入浴介助時は方の思いに沿って、さりげないと声かけをし、無理じいしないよう支援している。	一人一人を大切にするために、名前や住所、昔の暮らしについて度々会話をする事で利用者自身に自分の事を思い出し、振り返る機会を作っている。職員の守秘義務についても、入社時に徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で方が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	方の趣味嗜好に合った支援、自己決定への働きかけに注意している。入浴、食事方に即して提供している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調に合わせて、方のペースを優先、「食事、入浴、レク」参加は、方希望に沿って提供している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪、衣類は、方希望を取り入れ、おしゃれが出来るように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みや栄養のバランスを考慮している「栄養士」が立てた献立「食材」を利用し、調理の下準備等を一緒に行い、会話をしながら準備している。食事中も見守り会話を楽しみながら食事をしている。	三食共に職員の手作りで、業者の献立の他に、頂き物や畑の野菜、つくし、ワラビ等、初物や旬を大切に家庭的な料理で利用者や家族に好評である。利用者は下ごしらえや、できる方は食器洗い、食器拭き、机拭き、配膳を行い参加している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事量や水分量をチェックし個別記録にし、把握している。一日を通じて一人ひとりに合った量を確保できるよう、好き嫌いやアレルギーの有無等を確認しながらバランスの良い食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や方の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケア支援している。義歯損傷やかみ合わないときは家族に連絡し治療をしている。…家族が対応できないときは協力歯科へ職員が対応している。また訪問歯科も利用し口腔ケア支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のチェック表で一人ひとりの排泄パターンを把握し、オムツや尿取りパットを使用している方もトイレでの排泄を心がけている。	一人一人に合わせたパンツの使用や誘導により、全員トイレで排泄している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維の多い食品や乳製品を多く取り入れる等の工夫をしている。便秘で下剤が処方されている方もいるが、なるべく運動や食べ物で自然に排便がされるように取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一日おきに入浴している。入浴が好きで楽しみに行っている方、入浴嫌いの方等様々であるも入浴前に気持ちの準備が出来るよう「じゃんけん」ゲーム等で順番を決めるなどの工夫をしている。無理強いはいしない工夫している。	週3回、曜日を決めて全員入浴している。嫌がる方も楽しく入浴できるように、入る順番を決めるじゃんけんをして、きっかけ作りをしたり、入浴剤やゆず・菖蒲を入れて変化をつけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を一人ひとりの体調に合わせて無理のない範囲で運動「内外歩行運動支援」「レクリエーション活動」等で夜間の安眠に繋げる支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者個々の薬を把握できるよう、処方箋を個人ファイルにし、職員何時でも把握でき、また薬が変更になったときは、朝夕の申し送り伝え、職員申し送りノートにも記載し、服薬支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯たたみ、調理の下準備等の生活支援、また気分転換を図るため、外出(散歩、買い物)その他(歌、カルタ、トランプ、ものづくり等)、レク等で楽しみが持てるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天気の良い日は、施設畑の「果物、野菜」の収穫や近隣の果物「みかん・柿狩り」や外食や花見等で外に出る機会を設けている。家族との外出をしてもらっている。	個人的に買い物や喫茶店へ出かけたり、年間を通して晴れた日には気分転換と運動を兼ねて積極的に散歩に出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	散歩や外出時に、自分で買い物ができるように支援している。お金を管理できる方は自己での支払いを、また管理できない方はその場で手渡し、自己で出来るように支援している。買い物ができる場所の提供支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望時に家族や友人に電話を掛けたり、また取り次いだりしている。手紙を出したり、受け取ったり、やり取りができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間「フロアー」や居室で自由に過ごせるよう支援している。玄関、居室、窓に施錠をしない何時でも自由に施設内がを自由に出入りできるようにしている。	利用者が日中集うフロアーは毎日利用者と職員で掃除がされ、清潔である。千羽鶴で作ったツリーや折り紙の作品が沢山飾られ楽しい雰囲気になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々の部屋でゆっくりテレビを見たり、臥床したりと、ゆったり過ごす時間への支援、フロアーでレクレーションやものづくりへの支援し個々の思いに沿って自由に過ごせる工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や寝具、写真等本人馴染みやすい空間作りの支援し安心して暮らせる工夫をしている。	小さめの棚やテレビが持ち込まれ、どの居室も毎日利用者と職員で掃除がなされ、スッキリと片付いて清潔が保たれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室ドアやトイレ等が分かるように、手作りの名札を名札をドアに付け自己で確認し対応できるよう工夫している。		